

# 神樹の会会報

No. 11

本部事務所：神戸市灘区備後町3丁目2番22号

昭和 62年 6月 1日

六甲作業所内 TEL(078)821-1533

## (事業所)

六甲作業所及び東部生活訓練所  
〒657 神戸市灘区備後町3丁目2番22号 ☎821-1533

垂水作業所及び西部生活訓練所  
〒655 神戸市垂水区星陵台4丁目4番45号 ☎782-9675

福祉の店「いたやど」  
〒654 神戸市須磨区大黒町2丁目2-12 ☎733-2477

## 祝 ワークホーム明友 誕生

私たちが長い間、待ち望んだ社会福祉法人神戸明輪会経営によるワークホーム明友が三月三十一日に完成し四月一日にオープンすることになった。(法人認可は三月二十七日)

かねてから入所を希望していた四十四名の園生と二十一名の職員の体制も整い、三班にわかれて徐徐に入所し、とりあえず施設生活の適応訓練を受け、十三日より授産業務にあたることになった。それに先立ち四月十一日清水障害福祉室長ほか市内各福祉関係者をお招きして入所式を挙行了した。牧野理事長より入所およろこびのことばと共に「稚心を去り孤独に耐えよ」の訓示があった。

あわただしい諸準備を経て、四月二十一日ワークホーム緑友と共催にて盛大な竣工式が挙行された。夜来の強風や静まる中、午前十時より市長、助役、県民生部長をはじめ民生、教育の各関係者、各界代表、市民の協力者など約三百名が招待された。華やかなテープカットの後式典にうつり、法人理



園生代表も参加してテープカット (左はし 牧野理事長)

事長挨拶、施設長紹介、建設工事経過報告、感謝状贈呈、来賓祝辞が行なわれ、宮崎市長より三十年來のし

あわせの村の構想経過の思い出の話があり、市会議長、県民生部長の完成よろこびのことばと共に、激励の辞

のべられた。式典終了後玄関横で市長の手によって記

年植樹が行われ、施設見学のあと竣工披露パーティが盛大に行われた。

私たちが神戸明輪会は、ワークホーム明友を拠点として、さらに後につづく障害児(者)のしあわせをもとめ、新たな段階への事業をおしすすめるねばならない。

## 二十一世紀福祉への幕あけ

四月二十一日  
竣工式に於て  
理事長 挨拶

社会福祉法人神戸明輪会理事長 牧野一夫

春らんまんの今日のよき日しあわせの村第一号施設としてワークホーム明友の竣工式を緑友との共催のもとにかくも盛大に挙行することができました。これは、私たち神戸市重度心身障害児(者)父母の会ならびに神樹の会にとりまして、まことに感謝と感激の極みでございませう。

思えば両会は結束以来二十年、機会ある毎に授産施設の建設を要望して参りました。その間年と共に重度化する障害児をかかえ親たちの苦悩、不安、負担は重くなるばかりでした。養護学校への入学も許可されず「一度でいいから、よその親たちのように『危ないから気をつけて』施設占元成」と言って学校へ送り出した

「かた」も嘆きつつ過ぎた。た親もあれば、入学を許可されても卒業後の不安におびえつつ泣きながら訓練にはげんだ親子もいました。彼らにとって市当局のご援助によるいこの家の建設や東西の作業所の設立は、どんなにか心に明るさをもたらししたことでしょう。

しかしながら両会にとって心より欲することは、あくまでも本格的な社会福祉法人として認可された重度障害児(者)の施設建設でありました。そのため私たちは、その設立を夢みて十数年の間バザーを開催したり募金活動を行なったりして、この日のくるのを心待ちにまっております。

今日ようやくにして多くの方々のご支援により多年の望みがかない、社会福祉法人神戸明輪会が誕生し、ワークホーム明友として、しあわせの村の福祉理念実現の一環を担うことができました。これは、この上もないよろこびでございます。将来はこの施設を核にしてデイケア・サビスを拡充し、療護施設を建設し、さらに在宅重度障害者へのきめ細やかなサービスを行うなどの希望に胸ふくらませるものでございます。重度は重度なりに、軽度は軽度なりに、その障害にふさわしい環境が、あたえられてこそ、障害者が最大の生きがいを得られるものと信じます。

本日の竣工式は、一つには施設完成のよろこびであり一つには二十一世紀福祉への幕あけと考える次第でございます。市長様ありがとうございました。市民のみならず、ご来賓、関係各位、市民のみなさま、ありがとうございました。私たちは将来への大きな夢をいだきつつ、あたえられたワークホーム明友をせいっぱい活用して、皆さまのご期待におこたえすることを誓いましてご挨拶いたします。

- \* 昭和六十二年度 神樹の会
- \* 総会 △云の( ) 安未内
- \* 1. 日時 昭和六十二年六月二十八日 (日) 午後一時三十分より
- \* 2. 場所 神戸市立勤労会館 403号室 (三の宮 中央区役所西どなり)
- \* 3. 議題 諸報告・役員選出・予算案・他

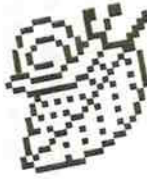


### 施設の概要

敷地 5,010㎡  
建築面積 1,945㎡  
鉄筋コンクリート平屋づくり  
総工費 369,000千円

### 授産科目

1. ポリエチレン袋製造
2. 衣類アイロンカケ及び袋づめ
3. 印鑑組み立て
4. 軽作業



## 先生方の移動

次の先生方が今春ご転任になりました。

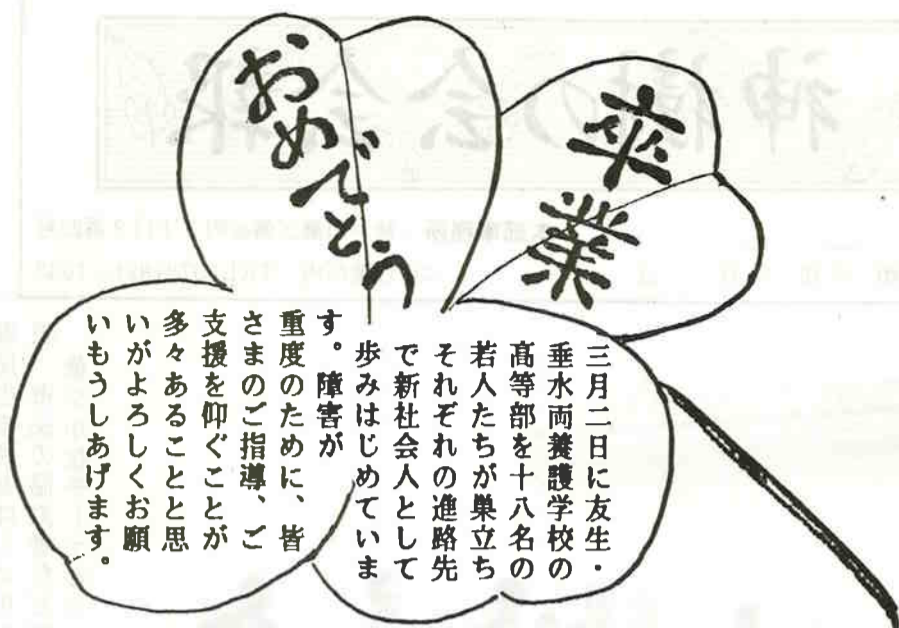
### 友生養護学校関係 (敬称略)

飯島和夫 (退職) 小倉幸雄 (退職) 半信子 (退職) 国正美智子 (退職) 飯田育夫 (市立盲) 加渡直子 (本山幼) 滝内直生 (明親小) 野坂静枝 (美野丘小) 田辺日出美 (夢野中) 荒川一人 (垂水養) 藤井一二美 (須佐野中) 大石麻子 (高津橋小) 車谷政子 (上野中) 奥野ちか子 (垂水養)

### 垂水養護学校関係 (敬称略)

岡実 (櫛谷中) 西川靖子 (乙木小) 長谷照彦 (春日台小) 平山温子 (福田小) 勢田裕造 (横尾中) 山坂光世 (本山南中) 金田順子 (白川台中) 守本寿美子 (西灘小) 鈴木桂子 (退職) 八尾真智子 (退職) 畠野茂樹 (大沢小) 林英理子 (退職) 清村明仁 (友生養) 西岡久恵 (青陽西養) 杉山千恵子 (友生養) 村尾茂寿 (友生養) 石井悦子 (岩岡中)

岡実校長先生がご転任になられ垂水養護学校長として水野整一先生がご着任になりました。



三月二日に友生・垂水両養護学校の高等部を十八名の若人たちが巣立ちそれぞれ進路先で新社会人として歩みはじめています。障害が重度のために、皆さまのご指導、ご支援を仰ぐことが多々あることと思いがよろしくお願ひもうしあげます。

神戸市立友生養護学校

大西 総美

土曜教室

杉山 かおり

神戸愛生園

田野 美保

神戸愛生園

藤田 亨

火曜教室

松本 洋一

ワークホーム明友

水谷 貴美子

戸塚刺繍教室

驚岡 恭子

火曜教室  
ワークホーム明友

神戸市立垂水養護学校

小泉 正人

ワークホーム明友

藤田 和広

神戸愛生園

中村 幸裕

ワークホーム明友

宮脇 資治

ワークホーム明友

藤本 泰旨

星陵園

榎木 繁一

星陵園

木内 香

神戸愛生園

下山 紀子

ワークホーム明友

財田 ゆか

垂水作業所

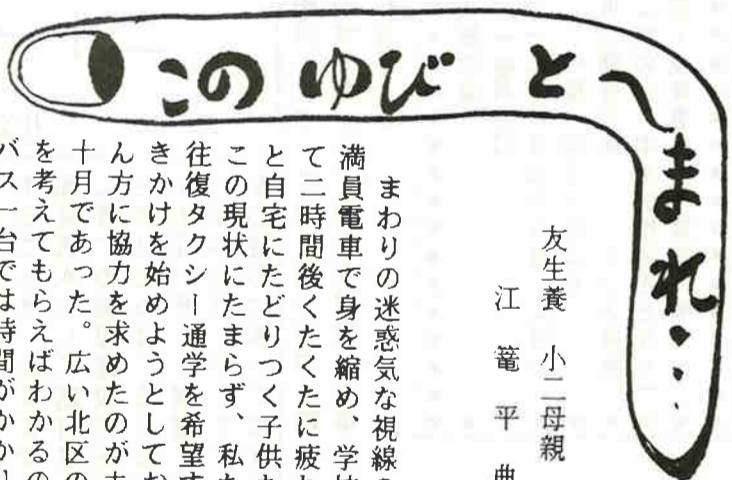
榎木 良子

星陵園

榎木 小百合

星陵園

在宅 在宅



友生養 小二母親

江 籠 平 典 代

まわりの迷惑気な視線の中、満員電車で身を縮め、学校を出て二時間後にくたくたに疲れやっとうと自宅にたどりつく子供たちがこの現状にたまりつかず、私たちが往復タクシー通学を希望する働きかけを始めようとしてお母さん方に協力を求めたのが去年の十月であった。広い北区の地理を考へてもらえばわかるのだがバス一台では時間がかかりすぎるし道路もせまい。バス購入にかかわる費用、人件費などを入れれば莫大な費用を必要とする。

あのこと 報生口

### 新年会並びにお祝いの会

昭和六十一年度神樹の恒例の新年会は、去る九月神戸市福祉大会で市長表彰ならびに明日っ子教育賞を受賞された牧野会長のお祝いの会を兼ねて、一月十五日午後一時半よりポートピアホテル地階において開かれた。

友生・垂水養護学校の両校長先生をはじめ両校の先生方、神樹の会会員、関係者など百四十名が参加して谷副会長の司会のもとに盛大に行われた。受賞紹介、記念品花束贈呈について鈴木正二郎校長の印象的な思い出話があり、乾盃後会食にうつり岩桐さんの祝舞、楽しい宮脇さんのビンゴゲーム等々にぎやかな歓談の中に意義深い祝宴が行われた。

### あ と が き

おくりておりました会報第十号ができました。今年度は、社会福祉法人が認可された記念すべき年でありました。今年度は協力くださいました皆様ありがとうございました。

### ワークホーム明友にピアノを寄贈

五月十四日ワークホーム明友に神樹の会および会員有志からピアノ一台が寄贈されました。昼食後、西原浮左子さんによってリスト作曲「愛の夢」の演奏があり、あと園生一同合唱をして和気あいあいの中に贈呈の式を終えました。

結局タクシーがいちばん安くつくことになるのだが、その反応は予想以上に冷たいものだった。「引越せばいい」(じょうだんじゃない)「最初はバスもなかったのを先輩が・・・」(それから十年)「あまり自立たない方がいい」(大きなお世話)「ものには順序がある」(意味不明)etc 応援と共に多くのお言葉をいただいた。そのうちのあるお母さんが「ワークホーム明友が北区に出来るんやって、通所があっても通われへん」といわれた。神樹の会活動の十五年の結晶であり、その北区から小さな子供たちは友生養護学校へ通い、わが家からはなんと車で十分のところである。

私もまた自分には甘く、他人には厳しい身勝手な人間ではあるが、可愛い子ども達の将来(通学問題に限らず)は、私たち自身の手できづいていかなければと強く思っている。幸いにも牧野先生が育てて下さった神樹の大きな木があるではありませんか。それにしてもとくまゆをよせがちの私が、今いちばん学ばなければならぬのは、牧野先生のいつもおだやかなお顔ではないだろうか。難題だ。